

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

魅力発信拠点施設整備による交流促進のまちづくり

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道河東郡音更町

### 3 地域再生計画の区域

北海道河東郡音更町の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地域の現状

本町は、都市の利便性をはじめ、北海道十勝の風土が生み出す豊かな自然や風景、高品質の農畜産物（特に小麦や豆類は国内を代表する産地）、北海道遺産であるモール温泉など、魅力的な地域資源を数多く有している。

一方で、本町の国勢調査による人口は、1960年代後半からの高度経済成長期以降、帯広市に隣接する恵まれた立地条件を背景とする住宅開発の進展とともに増加を続け、この50年間でおおむね2万人増加したが、日本の人口が減少に転じる中で、本町の住民基本台帳の人口推移においても、2010年12月の45,707人をピークに減少傾向にあり、2019年12月では44,342人となったところである。

2011年から死亡数が出生数を上回る自然減、さらに2016年からは転出数が転入数を上回る社会減の状況が続いており、自然減については20歳前後の転出数増加に加えて晩婚化、非婚化、少産化等の社会的要因、社会減については進学や就職等による15歳から24歳の転出超過が要因と想定される

また、国立社会保障・人口問題研究所が公表している本町の人口推計から、今後も、人口減少が続くと予想される。

#### 4-2 地域の課題

人口減少は経済活動の縮小につながり、町内での購買力低下など地域経済への

影響が懸念されることから、交流人口の増加により域内経済の循環を高め、地域経済を活性化させることが求められている。

本町は国内を代表する農畜産物の産地であるものの、生産した農畜産物の多くは町外で販売・消費され、観光客等呼び込む資源としては機能していない状況である。2017年度に実施した「個人観光客動向調査」によると、本町への旅行の目的は、最も高い「温泉」の49.3%に対して「特産品の食事」が14.1%であったが、旅行中に感じた良い点では、「食べ物のおいしさ」が54.9%で「温泉」を上回り最も高かった。これは、本町の農畜産物等が観光客を満足させられる高いポテンシャルがあるものの、その魅力発信ができていないため、観光客が旅行先を選択する動機付けになっていないことを示している。観光の拠点としては十勝川温泉があるものの、2018年度の観光入込客数は前年度と比較して減少しており、交流人口の増加による地域経済の活性化を図るためには、本町の強みである高品質の農畜産物等の魅力を広く発信することで「人を呼び込むまち」へと成長する必要がある。

#### 4-3 目標

本町の魅力を発信し人を呼び込む拠点施設として、1991年度に建設した音更町特産センターを活用し、1996年度に道の駅「おとふけ」を開設した。しかしながら、現道の駅は、高速道路の開通に伴う観光客等の移動経路の変化や施設の狭あい化等の問題を抱え、魅力発信拠点としての機能を果たしていないのが現状である。道の駅は「地方創生の拠点」、「地域の魅力再発見の場」とも言われていることから、本町の課題を解決するため、国内有数の農畜産物の産地という優位性を活かし、まちの新たな魅力発信拠点施設として道の駅「おとふけ」を移転改築する。

「食と体験を基に人々が賑わい交流を行う拠点施設」として、十勝・音更町の農畜産品や特産品を販売するとともに、魅力的な地元産品の食材を用いて、ここでしか味わえない食を提供するほか、地域の交流拠点施設として道内各地からの誘客を目的とした大型イベント等を開催することで交流人口を拡大し、農畜産物の販売促進等の消費拡大と新たな雇用の創出による地域経済の活性化につなげ、まち・ひと・しごとの好循環を生み出し活力ある音更町を実現する。

## 【数値目標】

K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2022年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
道の駅の来館者数 (人/年)	46,417	700,840	基本目標 2
道の駅の販売額 (千円/年)	36,031	414,310	基本目標 2

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2 及び 5-3 のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

#### ① 事業の名称

音更町魅力発信施設整備事業

#### ② 事業の内容

本町の魅力発信拠点として、道の駅「おとふけ」を移転改築し、「食と体験を基に人々が賑わい交流を行う拠点施設」として施設規模を大幅に拡大し、かつ、機能の充実を図る。これにより、音更特有の地域資源である農畜産物や加工品等の販売はもとより、国内を代表する小麦の産地としてベーカリーを設置するほか、地場産品を用いた飲食を提供する飲食店を7店舗とカフェ1店舗を設置し、ここでしか味わえない食を提供する。

また、農業や文化、歴史、風景など十勝・音更の魅力を伝える各種展示コーナーを設置するほか、町外からの来場が見込める収穫祭等の大型イベントや外国人を含めた観光客等と町民が日常的に触れ合える演奏会やカルチャー教室等のイベントを開催する。

さらに、立地面では、道東自動車道の音更帯広インターチェンジ近接地へ移転することによるアクセス環境の飛躍的向上が見込まれるほか、既に当該エリアに立地し、年間60万人超の来場者を誇る十勝を代表する菓子メーカー

「柳月」の旗艦店舗「柳月スイートピアガーデン」に隣接させることで、両施設の相乗効果が発揮され、音更に人を呼び込む新たな観光拠点となる。

本事業は、音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標2「音更の魅力で人を呼び込む、呼び戻す」の「具体的な施策及び事業」の「観光による交流人口の拡大」に位置付けられる事業であり、当該基本目標2の数値目標である「観光入込客数 1,461,000人（令和2年度）」の達成にまさに寄与するものである。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

387,000千円（2020年度・2021年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証機関である音更町総合計画推進委員会（商工会、観光協会、農協、高等教育機関、金融機関、地区連合会、社会福祉協議会、新聞社、公募による町民等）にて毎年度6月に事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。推進委員会による検証後、町議会での報告・検証を経て、目標の達成状況を町ホームページにより公表する。

⑥ 事業実施期間

2020年4月1日から2022年3月31日まで

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) （仮称）道の駅公園整備事業

###### ア 事業概要

道の駅の隣接地に来館者等の憩いの場として公園を整備する。道東自動車道音更帯広ICに近接する地理的優位性を活かして、公園内には都市間

高速バスの交通結節点機能を整備し、道の駅の利便性向上を図り来館者の増加につなげる。

**イ 事業実施主体**

北海道河東郡音更町

**ウ 事業実施期間**

2020年4月1日から2023年3月31日まで

**6 計画期間**

2020年4月1日から2023年3月31日まで